

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	かみな月十日第五高等中學校開校紀念會の歌 : 文苑
Author(s)	園, 哲雄
Citation	龍南會雜誌, 10 : 21 - 22
Issue date	1892-10-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/3882">http://hdl.handle.net/2298/3882</a>
Right	

るも思ひいでられて、から歌ぞもこゝら去のびうたひつれども得かゝず、されど尼上の齡八十あ  
まじなるが、歌をなんいたく好まるれば、たゞに黙すもこしたにて、

外國に類あらめや日れ本の春よさくらの花れ匂ひは

日の本のひかりなるらん得もいと匂ひめてたき山櫻花

吉野よりうつし植ゑにし花の色に君か心のほとそえらるゝ

雪どいひ又白雲どいふとてもめてこゝろ盡きぬ御園生の花

河内なる片野のみ野にあらねども花の吹雪に道も迷へり

などかたりあひて、日の暮るゝをもえらで松ぞもともして、花の下臥しに夜を明しけり、

### かみな月十日第五高等中學校

#### 開校紀念會の歌

園 哲 雄 稿

かしこき御代のはたちまり、

三どせのかみな月にしも

まなびどころの熊本に、

立ちし今日こそ嬉しけれ」

僅に五つ設けられ、

やまどに類多からぬ

まなびどころの熊本に、

立ちしなふこそ嬉しけれ」

富士より高き天皇の、

御蔭によりてうるはしき

まなびどまろの熊本に、

立ちし々ふこそうれしけれ」

祝へや競へ筑紫人、

めぐみを報ひ身を立つる

まなびどころの熊本に、

立ちし々ふこそうれしけれ」

### 明治廿五年の秋熊本なる高等學校の數

### 百の人々と薩隅日の三州へ行軍の歌

園 哲 雄 稿

「いかにやいかに荊萱の

關の戸さゝぬ御代」といひ

又或人は、大君の

爲には何か惜しからん

薩摩の瀬戸に身は沈む

ども」といひしは鳥がなく

東路よりし打日さす

都よりしてわが心

つくしのはてに居え君を

慕ひつゝこし村肝の

心をやりし歌ぞかし

そのかみ幕府あることを

えりて天朝あることを

えらぬ僻事ヒガ概ツシメみて

維新の基たてなんど

たてし操よおのがその

身を屠らかし身を沈め

明治の御代の御光に

顯しゝ名をいざ行き、

吊ひ見てんいざ給へ